

夏にやること

① 前期教材/授業の復習

ここでいう復習とは、以下をいう。

- ・講義用問題や例題について、何も見ず答案が再現できること(言葉による説明を入れる)
 - ・定理や公式を教科書やポイント集などを見て、ゼロから書けるようにすること(証明も)
 - ・抜けている基本事項の反復練習をすること
- 想像以上に時間がかかるので、要注意。

② 夏期講習の予復習

予習で(模試や本番のように)悩むこと。

正解を聞いた方が早い、と言うのは合格する効率を下げているかもしれない。

③ 共通テスト(IA・IIB)を3年分以上

共通テストを馬鹿にしてはいけない。非常に厄介である。

共通テスト対策の参考書でも良い。現役生はセンター試験の過去問でも良い。

そして次の模試のために時間配分を決めること。

④ 自分の持っている参考書やポイント集(演習量を増やす必要有)

難しい問題よりまずは基本(土台)から進める。

模試や本番で役に立たないので、解説を見ながら解かない。

解説を見たら隠して再度自力で答案を作る(解いた後こそが大事)。

また、覚えるのではなく「なぜそうするのか/なぜ他はしないのか」を常に考えよう。

「何周もやる」とか「1冊全部やる」とか量をこなす場合、質を犠牲にすると成績が下がる。
計算練習でない限り、1問15分~30分かかる。いや時間をかけるべきである。

(注1) そんなに、あれもこれも出来ない。

しっかりと予定を立てること。グラグラしたらあっという間に終わる。

(注2) 「裏技のような知識」や「大学で学ぶ事項」は受験ではあまり役に立たない。

自分で発見したわけでもない知識を知っていても自慢にならない。

またそういう奇抜な方法は、答案でしっかり説明しないといけない。

大学側は、数学の実力がある人が欲しいのである。

例えば東大実戦模試で高得点を取れないのは、そういう知識が足りないからなのだろうか。

(注3) 楽しんで取り組むこと。

知的好奇心が溢れ出てくるので取り組んでいるのである。「なるほど!」を大事に。

合格してほしいため、配布します 永島